

# 一般質問

9月定例会



瀧尻 行雄 議員

## Q 頓原小・中学校の登校路の安全は

頓原小・中学校通学路の改良に伴い、ロードヒーティング廃止と聞くが、児童・生徒・学校関係者の安全確保対策をどのように考えているのか。

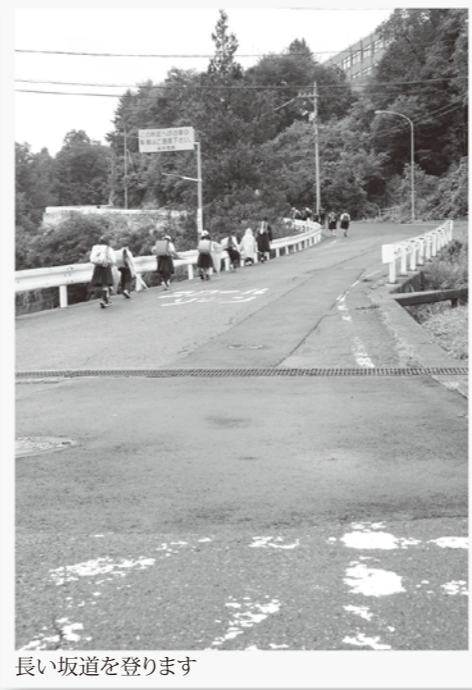
これまで、冬期間はロードヒーティングが活躍し、子どもたち・保護者・学校関係者は、安心して登下校していた。

高台に学校を建設するにあたり、安全確保の観点から設置されたものであり、経過を今後検討した上で判断を期待し、町長の思いを聞きたい。

## A 安全な道路改良を

町長 山崎 英樹

児童・生徒の通学路は安全で便利に使える道路でなくてはならない。冬季の除雪も含め、維持管理がしっかりできる道路改良にしたい。



長い坂道を登ります

## Q 集落維持の戦略は

農水省は、30年後の農村地域の人口予測を公表したが、中山間地域では人口が半減し、約14万の農業集落の内、約1万の集落維持が難しくなる時代が来ると述べている。

本町の場合は、U・イターンなどで集落維持に頑張っているが、10年先の戦略が急がれるのではないか。

## A 実態調査をもとに

町長 山崎 英樹

本町でも地域・集落の高齢化が進み、厳しい状況にある。強い危機意識をもって、町民が住み慣れた地域で暮らし続けられる町づくりを全力を尽くす。

そのひとつが小さな拠点という考え方で、公民館エリアで、生活機能・地域産業等と地域包括ケアシステムが連携して取り組んでいる。各地区の新たな仕組みづくりへの支援も行っており、これに関連して集落実態調査を実施している。

## Q 農福連携指導者の育成を

前回も農福連携について質問したが、その後の動きはどうか。

農業と福祉を結び付けるには、それぞれの専門家や両方を指導できる人材の育成も必要ではないか。

## A 新たな課題として研究・検討

町長 山崎 英樹

農福連携は、労働力不足や後継者の確保対策、障がい者の就労の場として有効なシステムと考えている。

町内の障がい者福祉サービス事業所では、今年度、県の補助金を活用し、除草作業の受託や野菜の包装作業、代理出荷などが行われている。最近本町に進出した企業には、農福連携に取り組まれることを期待している。

人材育成について、新たな課題として研究検討していく。

# 一般質問

9月定例会



伊藤 好晴 議員

## Q 虐待撲滅目指せ

虐待による児童の死亡、傷害や暴行に関わる報道が相次いでいる。本町では大きな事件は発生していないが、起こってからは遅い。

政府の提唱する「虐待防止プラン」への対応は怎么样了か。

オレンジリボン運動の中で「子育て中の親子に優しいまなざしを」「階段で困っている親子には、ベビーカーの持ち運びの手伝いを」「赤ちゃんに微笑みかけを」など提起している。これは「地域で、みんなが子どもを守っていきましょう」ということにつぎる。実現には自治体のアピールが必要だ。

福祉事務所の場所は行きにくいと思う。役所の要所、町内のしかるべき場所に、子どもの相談を受け付ける窓口を設置するよう提案する。



## A 保健師対応で努力

町長 山崎 英樹



乳幼児から小学校入学まで（保育所に入所していない乳幼児を含む）の子どもの安全確認、養育環境の把握は保健師が行っている。国の事業を使わず、町の保健師の仕事として見守っていく。

窓口設置は、今後の宿題とさせていただきます。本町に行きにくいということなら改善しなくてはならず、時間をいただきたい。

## Q 非核の町実現を

非核平和都市宣言は「ヒロシマ・ナガサキの悲惨な出来事を二度と起こしてはならない。自分たちがずっと安心して暮らせる平和な世の中を、自分たちが住んでいるこの飯南町が守っていくことにつながる。

唯一の被爆国が「ノーモア・ヒロシマ」「ノーモア・ナガサキ」の心を大切に、核戦争防止と核兵器の全面禁止のために努力することは、当然の国際的責務であるとも考える。

来年は、国際的なスポーツの祭典も開かれ、被爆75周年の節目にもあたる。是非とも飯南町を、非核平和都市宣言の町にしたいと思うがどうか。

## A 来年3月議会提案に準備

町長 山崎 英樹

保育所ぐらゐの時に広島を訪れ、直視できないものを経験した。修学旅行でも訪れ、悲惨さは心に深く刻み込まれている。

以前に質問があったが大切な宣言なので、平和を願うという大切な日に宣言すべきと思っていた。

被爆75年というのは頭になかったが、来年は平和の祭典オリンピック・パラリンピックが開催されるので、3月の定例会で宣言できるよう準備していく。

